

Planet

環境対応

環境保全

事業活動によって発生する環境負荷を把握し、その削減に努めることは私たちの果たすべき社会的責任のひとつと考えています。環境への影響、とりわけ原材料調達段階での影響について考えると、環境保全の重要性が見えてきます。そのため、マクドナルドでは環境認証を取得した原材料の導入を積極的に進めています。



環境保全（FSC®認証）

https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_planet/environment/



持続可能な食材の調達

(MSC認証、レインフォレスト・アライアンス認証、RSPO認証)
https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/sustainable_food_procurement/



森林保全 FSC®認証

森林の自然環境を守るために、店舗でお客様に提供する紙製容器包装類には、森林環境に配慮して作られた「FSC®認証」済みの資材を使用しています。また、店舗で使用している「トレイマット」もFSC®認証紙を使用しています。



責任ある森林管理
のマーク

詳しくはFSC®ジャパンのHPをご覧ください
<https://jp.fsc.org/jp-jp>



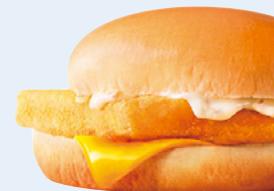
水産資源保全 MSC認証

人類共有の財産である水産資源を守るために、持続可能で環境に配慮した漁業で獲られた水産資源であることを示す「MSC認証」を取得した天然のアラスカ産スケソウダラをフィレオフィッシュに使用しています。



MSC-C-57384

詳しくはMSCジャパンのHPをご覧ください
<https://www.msc.org/jp>



熱帯雨林保全 レインフォレスト・アライアンス認証

コーヒー栽培は気候変動による影響を受けやすく、気候変動によって栽培に適した栽培地域が移動する懸念があります。これに配慮し、お客様に提供するコーヒー豆は、森林や生態系を守り、労働者に適切な労働条件を提供する「レインフォレスト・アライアンス認証」を取得した農園で栽培されたものを100%使用しています。



詳しくはレインフォレスト・アライアンスのHPをご覧ください
<https://www.rainforest-alliance.org/lang/ja>



持続可能なパーム油の調達 RSPO認証

パーム油は、世界で最も多く生産・消費されている植物油ですが、その生産は熱帯雨林やさまざまな生物の大規模な消失を招く恐れがあります。店舗で使用するフライオイルは、熱帯雨林や生物多様性、人々の生活に悪影響を及ぼさないことに配慮して生産されたことを示す「RSPO認証」を取得したパーム油を使用しています。



Planet

環境対応

廃棄物対策

事業活動によって発生する廃棄物を削減しつつ、可能な限り廃棄物としないようにすることも果たすべき社会的責任と考えています。まずは自らの廃棄物の内容を把握することから始まり、「発生抑制」の推進、次に「再利用」「再生利用」の対策を講じていくことを基本として取り組んでおり、廃棄物に関連する環境に配慮したシステムの改善や容器包装類における素材検討なども常に進めています。



https://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_planet/waste/



総評

2020年は売上の増加（対前年比+7.3%）により廃棄物量は全体で増加（対前年比+3.4%）となりました。また、売上100万円あたりで見ると、食品廃棄物量は82.3kgとなり、食品リサイクル法に基づくファーストフード店の発生抑制目標83.3kgを下回っています。

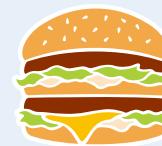
2020年 廃棄物発生状況

全店の食品・容器包装廃棄物量



全体
143.9千t/年

対前年比+3.4%



食品
47.6千t/年

対前年比+1.5%

食品
リサイクル率*

58.9%

* 食品リサイクル定期報告に基づく発生抑制を含む



紙類
37.1千t/年

対前年比+5.1%



プラスチック類
5.7千t/年

対前年比+7.5%



梱包材など
53.5千t/年

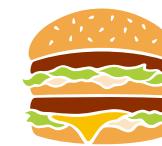
対前年比+3.5%

売上100万円あたりの 食品・容器包装廃棄物量



全体
249.0kg/百万円

対前年比▲3.7%



食品
82.3kg/百万円

対前年比▲5.5%

* 食品リサイクル法に基づくファーストフード店の発生抑制目標値=83.3 [kg/売上100万円]



紙類
64.2kg/百万円

対前年比▲1.9%



プラスチック類
9.9kg/百万円

対前年比+0.1%

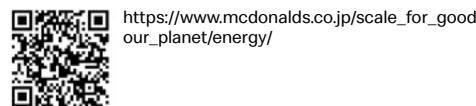


梱包材など
92.6kg/百万円

対前年比▲3.7%

エネルギー＆気候変動対策

地球温暖化や気候変動の問題は皆が自らのこととして取り組むべき課題であり、事業活動におけるエネルギー使用量の削減は私たちの高い優先課題に位置付けられています。マクドナルドのグローバル目標では、2015年比で2030年までに店舗のCO₂排出量を36%削減することを宣言しています。日本マクドナルドもこれに従いさまざまな対応の検討を開始しています。



総評

新型コロナウイルスの影響により、店内客席の利用一時中止、一部店舗の一時休業などの対応を行った結果、電気・ガス・水道の使用量は共に減少しました。これにより全体のエネルギー使用量が減少（原油換算値で対前年比▲3.1%）しましたが、来店客数も減少したことからレジカウント（客数）あたりの使用量は増加（対前年+5.2%）しました。温室効果ガス（CO₂）の排出量は減少（対前年比▲6.8%）しました。これはエネルギー使用量の減少と、電力会社の排出係数の減少（対前年比▲4.9%）によるものです。

2020年 エネルギー使用状況 & CO₂排出状況

全店の種別エネルギー使用状況



電気
62,592
万kWh/年
対前年比▲3.5%

ガス（都市ガス換算）
3,200
万m³/年
対前年比▲1.5%

水道
432.8
万トン/年
対前年比▲12.0%

お客様千人あたりの種別エネルギー使用状況



電気
469.3
kWh/千人
対前年比+4.8%

ガス（都市ガス換算）
24.0
m³/千人
対前年比+6.7%

水道
3.2
トン/千人
対前年比▲5.9%

全体のエネルギー使用状況 & CO₂排出量



原油換算値
199,496
キロリットル/年
対前年比▲3.1%

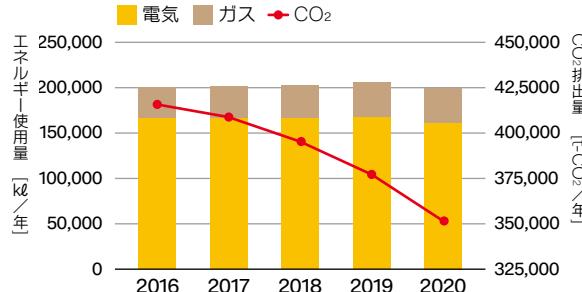
原単位原油換算値
0.2542
キロリットル/
千レジカウント
対前年比+5.2%

CO₂排出量
351,568
t-CO₂/年
対前年比▲6.8%
※ 原単位分母：千レジカウント
118.9
t-CO₂/店舗
対前年比▲8.9%

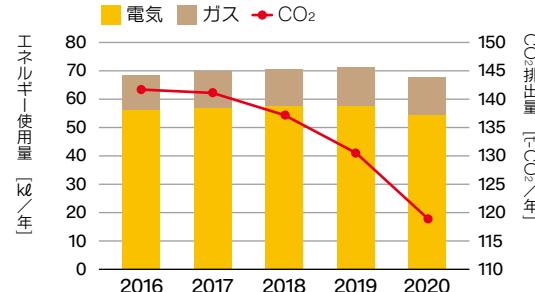
環境データ推移

環境にかかる過去5年間の推移をグラフで示しています。エネルギー使用量と、CO₂排出量を全店、店舗平均、客数原単位（1000レジカウント原単位）あたりに分けて示しています。廃棄物に関しては全店排出量、食品廃棄物量および食品リサイクル率、食品口数量について示しています。また、オーダーメイド方式によるメイド・フォー・ユーの導入を開始してからの商品（完成品）廃棄量の20年推移を示しています。

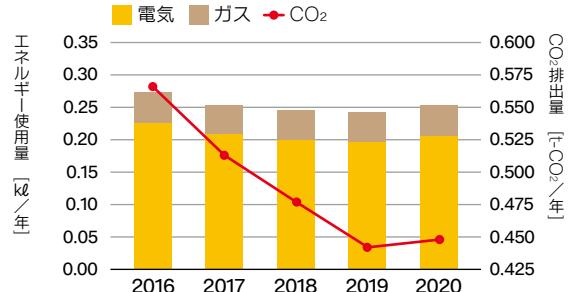
エネルギー使用量 & CO₂排出量（全店）



エネルギー使用量 & CO₂排出量（店舗平均）

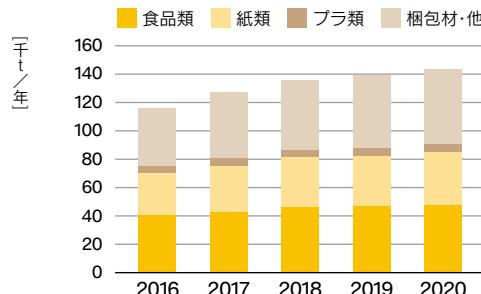


エネルギー使用量 & CO₂排出量（1000レジカウント原単位）



※ 排出量が前年より上がっているのは、2020年のレジカウント(客数)が前年より減少したことによるものです。

全店廃棄物排出量推移

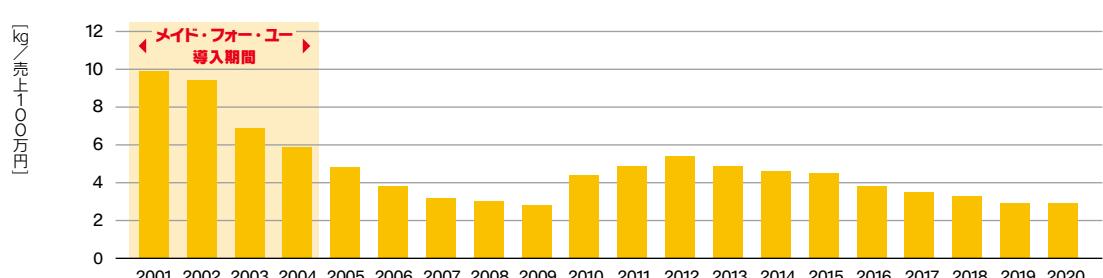


売上100万円あたりの食品廃棄量、食品リサイクル率



※ 食品リサイクル法に基づくファーストフード店の発生抑制目標値
=83.3 [kg/売上100万円]

売上100万円あたりの商品廃棄量推移



メイド・フォー・ユーは注文を受けてから商品を作るシステムで、これにより商品廃棄（完成品廃棄）量が大きく減少しました。

全食品口数量 & 売上100万円あたりの食品口数量

